原子分子データ応用フォーラム平成27年度事業計画についての補足

（会報を通じたニーズとシーズのマッチングについて）

　原子分子データ応用フォーラムでは、データのニーズとシーズのマッチングを目的として活動を行ってきましたが、セミナー、研究会の開催と協力とともに、会報の発行が重要な活動になっています。フォーラムの活動に対する、内外からの期待は大きいものの、具体的に実行できることは必ずしも多くなく、その中で会報は、編集担当の方のご努力により毎年１回、第４号まで発行することができ、活動として定着してきたと思います。

　活動を継続するためには無理のない範囲で行うことも重要と考えてきた結果、これまでの会報は、会の活動状況を、会員に対してお知らせするという考え方で、会員（正会員および準会員）だけに電子メールで配布していますが（Webサイトにも掲載）、今年度は、会報をフォーラム内のニーズ、シーズを科学コミュニティに広く配布して両者のマッチングを試みたいと考えます。

　原子分子データのニーズ、シーズについて、各々の応用研究のための原子分子データの必要性、原子分子データの実験的な計測や、理論計算、あるいはデータベースやコードの提供の提案などをお持ちで、情報発信について積極的に考えられている会員の方に一般の人にもわかりやすい記事のご執筆をお願いするとともに、電子メールで配布するにあたり、会員の皆様に送付先として適当と考えられる人をご紹介いただいて、科学コミュニティに向けてより広く配布するようにして、読者の方からのレスポンスを期待したいと思います。

　従って、今年度の会報の発行については、記事執筆をお願いするとともに、ぜひ配布先についての情報を提供してくださるようお願いしたいと思います。また、有効なフィードバックを得るためのアイデアも考えていただければと思います。

　科学コミュニティ内でもスパムと思われるような情報がしばしば配信されていますが、これまでの活動の経験で、情報が有用なものであれば正しく伝わり、それをもとに建設的な議論が行われるという印象を持っています。また、研究分野が多岐に渡る結果、必要な情報を見つけにくい傾向がある一方、いったんコンタクトが成立すれば、電子メール、Web、チャット、SNS等を活用し、コミュニケーションを確立することは以前より容易になっていると思います。

　このような試みで、実際にマッチングが成立するか、それとも良いレスポンスが得られずに終わってしまうかは分かりませんが、試みる価値があると考えていただければと思います。結果は来年度以降の活動にも役立つと考えられ、特に、会報の配布先のリストは、科学コミュニティ中のニーズ、シーズの情報についてのデータベースの作成のためにも役立つのではないかと考えています。

（研究者データベース、「欲しいものリスト」の仕様作成について）

　原子分子データのニーズとシーズのマッチングのため、研究者のデータベース、「欲しいものリスト」の作成について検討を行い、そのために新しいインターネット技術を活用する可能性を考えて、SNS活用についての作業部会における検討を行ってきました。

　研究者のデータベースは、原子分子データのニーズ、シーズを持つ研究者が、互いに協力することで研究を行うために役立ち、「欲しいものリスト」は、必要な原子分子データ、ツール等が公開されることで、データ、ツールの提供者とのマッチングに役立つともに、科学コミュニティの中でのニーズが明らかになることを通じ研究開発の促進に役立つことが期待されます。

　研究者データベースについては、大学、研究機関等ですでに作成されているものがありますが、システムの構築、個々の研究者における情報のメンテナンス等が煩雑で利用価値は必ずしも高くなく、新しい考え方が必要と思われます。

　SNSは、それを活用すること、各人が興味、関心の内容を投稿することによって研究者データベースがひとりでに構築される可能性があります。SNSは以前からありますが、Facebookの状況に若干の変化があるように思われます。

　例えば、異分野、世代を超えたつながりを友達関係に取り入れてかつ適切に管理することができるようになっています。依然として利用を躊躇される方は多いものの、個人が自己の投稿内容を管理する権限が強く、炎上防止のための仕組みがあり、個人情報の流出のような重大な事象は発生しておらず、セミナーの告知など可能な範囲で利用を継続するのが適当と思われます。

　研究者のデータベース、「欲しいものリスト」の実現方法として、サーチエンジンへのインターフェース、ポータルの構築が考えられます。ユーザーが原子分子データの検索を行うとき、原子分子データ応用フォーラムのWebサイトにおいて、フォーラムの用意したキーワードを使って検索できるようにします。データベースの本体については大学、研究機関等のものを、検索エンジンについてはgoogleなどの既存のものを使い、個人情報の管理などの困難を避け、検索キーワードにおいて原子分子データ応用フォーラムが固有に持つ情報を活用するシステムを構築することができるのではないかと思われます。

（佐々木明）